運動部活動と地域の関係構築に関する研究

新田　紗花（宮城教育大学大学院）

１．目的

本研究では、運動部活動と地域の関係構築の全体像と歴史を明らかにしたうえで、望ましい関係構築の在り方を検討することを目的とした。

２．方法

本研究は文献を分析することにより進めた。対象とした文献は運動部活動と地域の関係構築について述べられた論文や書籍、計 83 件であった。それぞれの文献について、「観点１：関係構築にかかわった組織」、「観点２：関係構築の形態」、「観点３：関係構築の目的」、「観点４：関係構築の際に生じる課題」、「観点５：課題を解決するために必要とされたこと」の 5 観点から分析を試みた。その後、それぞれの観点について、いくつかのカテゴリーを抽出した。このうち、対象文献 83 件の 5%以上である 5 件以上で構成されるカテゴリーを分析対象のカテゴリーとして確定した。さらに、確定したカテゴリーと対象文献を時系列に並べ替え、そこから読み取ることができる傾向から時期区分の作成を試みた。

３．結果と考察

１）カテゴリーの抽出

各観点について、3 から 5 のカテゴリーに分類された（表１）。

表１　文献分析で抽出されたカテゴリー

観点１	①人材 ②施設・設備 ③時間 ④日程	観点２	①部活ークラブ ②部活ー企業 ③部活ー地域
観点３	①技術指導 ②顧問の負担軽減 ③ニーズへの対応	観点４	①責任の所在 ②財源の確保 ③教育的配慮
観点５	①情報交流 ②共通理解 ③講習会 ④会議・話し合い ⑤立場の明確化		

２）時期区分の作成

１）の結果から読み取ることができる傾向に基づき、時期区分を作成した（表２）。

表２ 動部活動と地域の関係構築の歴史の時期区分

時期区分	年代	観点１				観点２			観点３			観点４			観点５				
		①	②	③	④	①	②	③	①	②	③	①	②	③	①	②	③	④	⑤
A	～2000年	■	■				■	■	■	■		■	■	■	■	■	■	■	
B	2000～2005年	■	■	■	■									■		■		■	
C	2005～2015年	■	■	■	■			■	■	■	■	■	■	■	■	■		■	■
D	2015年～	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■

特に、観点２に着目すると、運動部活動と両者の関係構築に関わる組織については、B及びCの時期において、「部活ー地域スポーツクラブ」が多く出現する結果となった。これは、総合型地域スポーツクラブ育成モデル事業（1995 年～）や学校の週 5 日制（2002 年～）などの国の政策が関係していると考えられる。

４．結論

結論においては、運動部活動と地域の関係構築の仮説的モデルを提示することで、両者の望ましい関係構築の在り方を提案した。このモデルの特徴は、第一に、運動部活動と地域が関係を構築する際には、運動部活動側から地域にアプローチすることが必要であるということ、第二に、両者の関係構築が進むと、関係構築の選択肢が新たに生まれ、関係構築の幅に広がりを持たせることができるということ、第三に、関係構築によって生じる課題を解決するためには、会議や話し合いによって、運動部活動と地域の双方の合意の上に進められることが重要であるということである。

＜参考文献＞

1)　神谷拓，運動部活動の教育学入門　歴史とのダイアローグ，大修館書店，2015.
2)　中小路徹，脱ブラック部活，洋泉社，2018.
3)　中澤篤史，運動部活動の戦後と現在：なぜスポーツは学校教育に結び付けられるのか，青弓社，2014.